

熊本大学附属図書館報

# 東光原

# 44

Kumamoto University Library Bulletin

ISSN 0917-7604

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/>

March 2006

## 特集 図書館と私

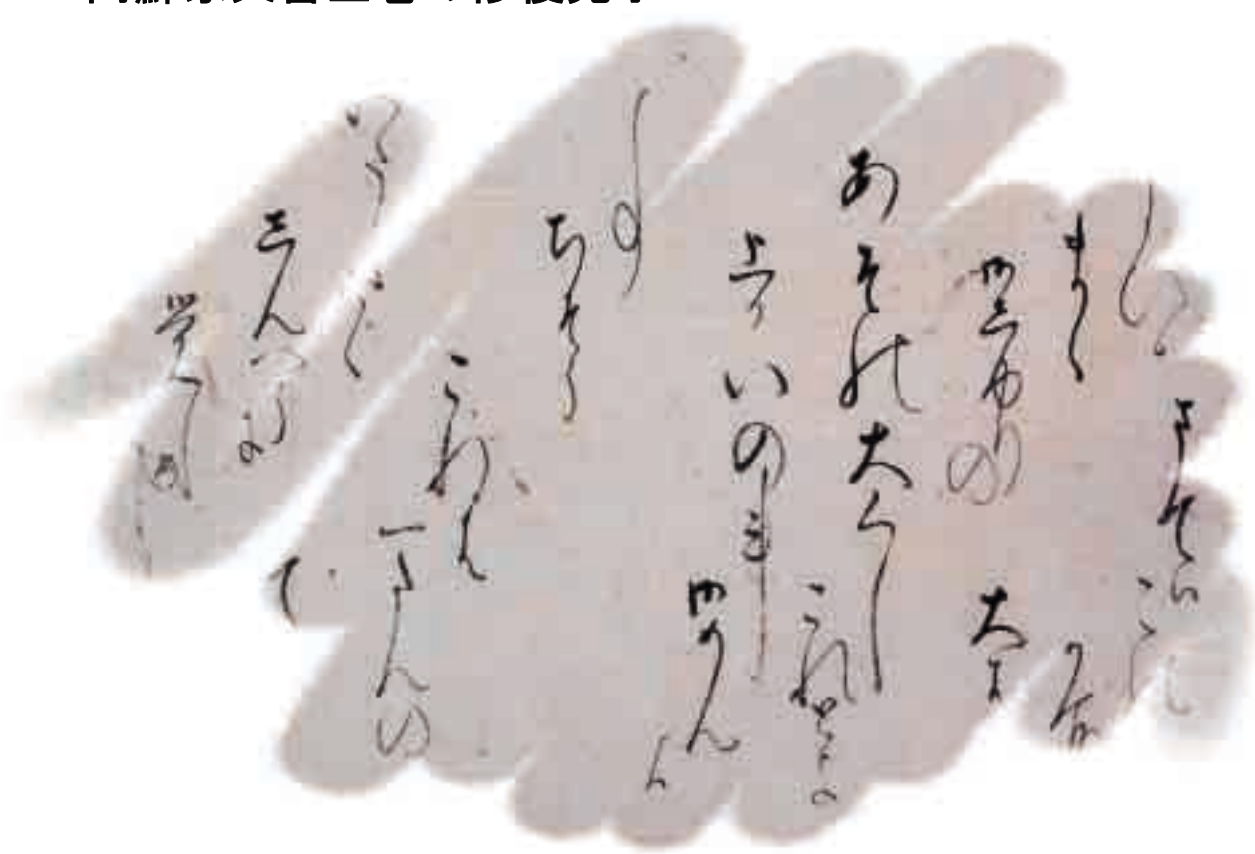
利用者アンケートの結果をみる

図書館ガイダンスへどうぞ

シリーズ研究の周縁より 書物の敵

細川元首相が来館

阿蘇家文書全巻の修復完了

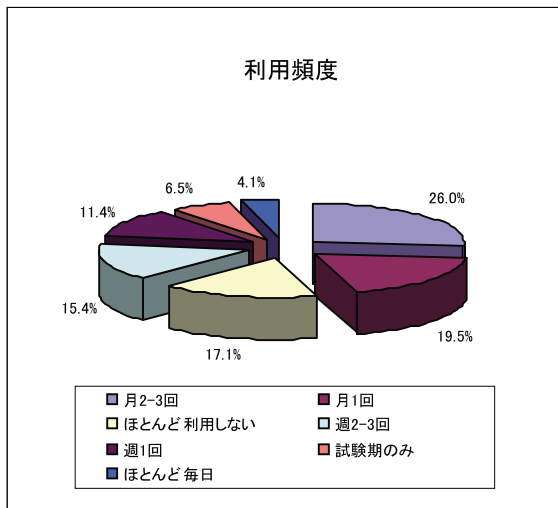


# 利用者アンケートの結果をみる

資料サービス係

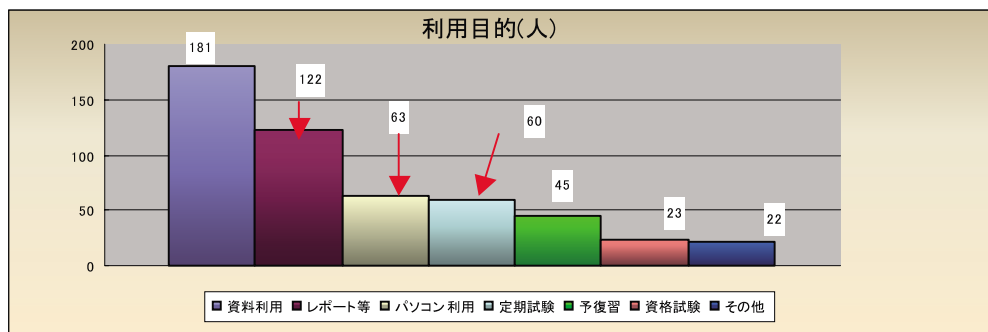
## 1. 図書館の利用頻度と利用目的

グラフ1は、図書館の利用頻度を表しています。回答を頂いた246名の頻度ごとの割合を出したものです。月2～3回の利用が最も多く回答者の26%を占め、月1回が19.5%と続いています。また、ほとんど利用しないという人も17.1%います。理由としては「使わなくても支障がない」、「インターネットで十分」が多数を占め、他に「専門書は研究室のほうが豊富だから」という意見もありました。



(グラフ1)

グラフ2は、図書館をどんな目的で利用しているかという質問への回答（複数回答可）です。中央館と各分館では機能的に多少異なる場所もありますが、いずれの館も「資料利用」が最も多く、続いて「レポート等の作成」となっています。「パソ



(グラフ2)

附属図書館では、利用者に対するサービスの向上と充実のため、平成13年・14年に続き3回目の利用者アンケートを実施しました。前回までは、利用者が図書館サービスに対して持っている期待と実際とのギャップを元にしたサービスの「品質評価」を目的としていましたが、今回の調査はもっと具体的な学生・院生の利用実態、満足度等を把握することを目的としました。

アンケートは、メールにより全学生・院生(図書館システム登録分)を対象として1月10日(火)から20日(金)までの11日間に亘って実施し、246名から回答がありました。

質問は、①図書館の利用、②施設・設備、③図書館資料、④図書館のサービス、⑤利用教育・利用支援、⑥図書館ホームページ・オンラインサービスに関する事で、自分がよく利用する図書館(中央館・分館等)について回答していただきました。

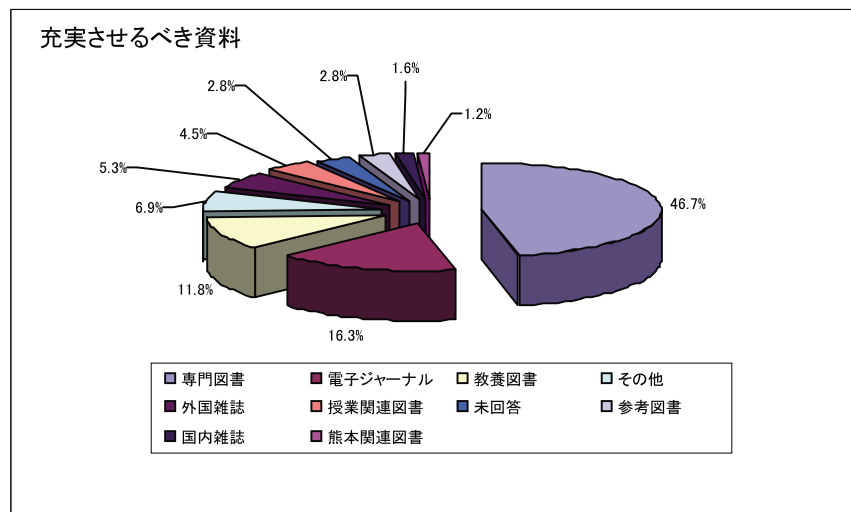
アンケート集計結果の全体は図書館ホームページで報告していますので、ここではその中から全館に共通する項目をいくつか選んで紹介することにします。

コン利用」の63名のうち58名は中央館利用者です。ちなみに「その他」には「論文の複写依頼」、「雑誌・新聞を読むため」等がありました。

## 2. 図書館資料で充実させたい分野

どの分野の資料を充実させるべきかの質問には、グラフ3で示すとおり、「専門図書」と答えた人が全体の46.7%（115名）いました。専門図書の充実は「28. 最優先で改善すべき事項」（詳細は省略します）

の質問でも最も多い意見でした。理由として「各専門図書の量が絶対に不足している」、「全体的に内容が古いものが多い」等があげられています。次いで電子ジャーナルの16.3%（40名）、教養図書の11.8%（29名）となっています。電子ジャーナルと答えた人のほとんどは院生です。

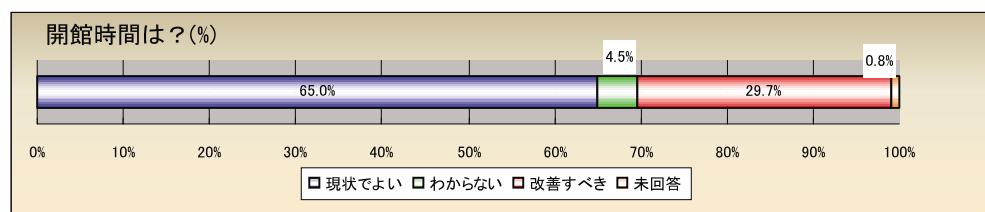


(グラフ3)

## 3. 図書館のサービス

開館時間については、グラフ4に示すとおり、「改善すべき」だと答えた人が3分の1近くいます。その内容として「土日や休日の時間を長くしてほしい」、「試験期間は開館時間を延長してほしい」、「朝8:30位から開けてほしい。土日も朝から開けてほしい」等、開館時間の延長を望む意見がほとんどでした。

また、グラフ5は図書館で提供しているサービスの認知・利用度についての質問に対する回答です。「視聴覚資料」と「書庫利用」以外のサービスは認知度が低く、知っていてもあまり利用されていないようです。



(グラフ4)

## 4. オンラインサービス

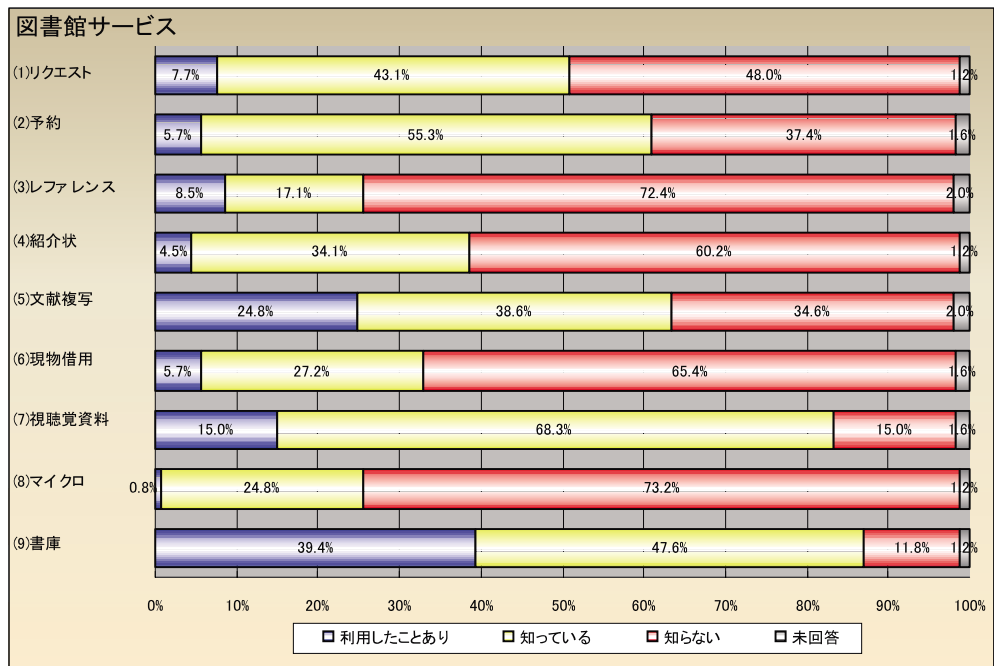
図書館ホームページへの訪問頻度の質問には、回答者の95%が「アクセスしたことがある」と答えています。グラフ6は図書館で提供するオンラインサービスの認知・利用度を表しています。トップペー

ジにある「お知らせ」は半数以上の人が見ていません。「OPAC」は認知度も高く、ある程度利用されています。

「データベース」と「電子ジャーナル」については、どちらも約3分の2の人が知っており、そのうちの半数が利用したことがあると答えています。

「文献取寄せ」は半数の人が知らないと答えている一方、20%近い人が実際に利用しています。

「レファレンス」、「リクエスト」、「図書館出版物」は、認知度は低く利用も僅かです。「WebCAT」はあまり知られていませんが、OPACと連携していることもあり11.5%にあたる18人が利用していました。



(グラフ5)

## 5. まとめ

アンケート結果の範囲では、熊大生は「資料利用」目的での図書館利用が最も多く、「専門図書」や「教養図書」等、図書資料の充実を望んでいるようです。また、院生からは「電子ジャーナル」サービス拡大についての要望が多く出されています。

開館時間に関しては、いずれの館も「開館時間の延長」、特に土・日、休日の延長を望む意見がほとんどです。図書館が行っているさまざまなサービスについては、オンラインサービスも含め全体的に認知度が低いため、こちらの期待するほどには利用されていないのが現状のようです。

### 最近寄贈された本学教員の著書

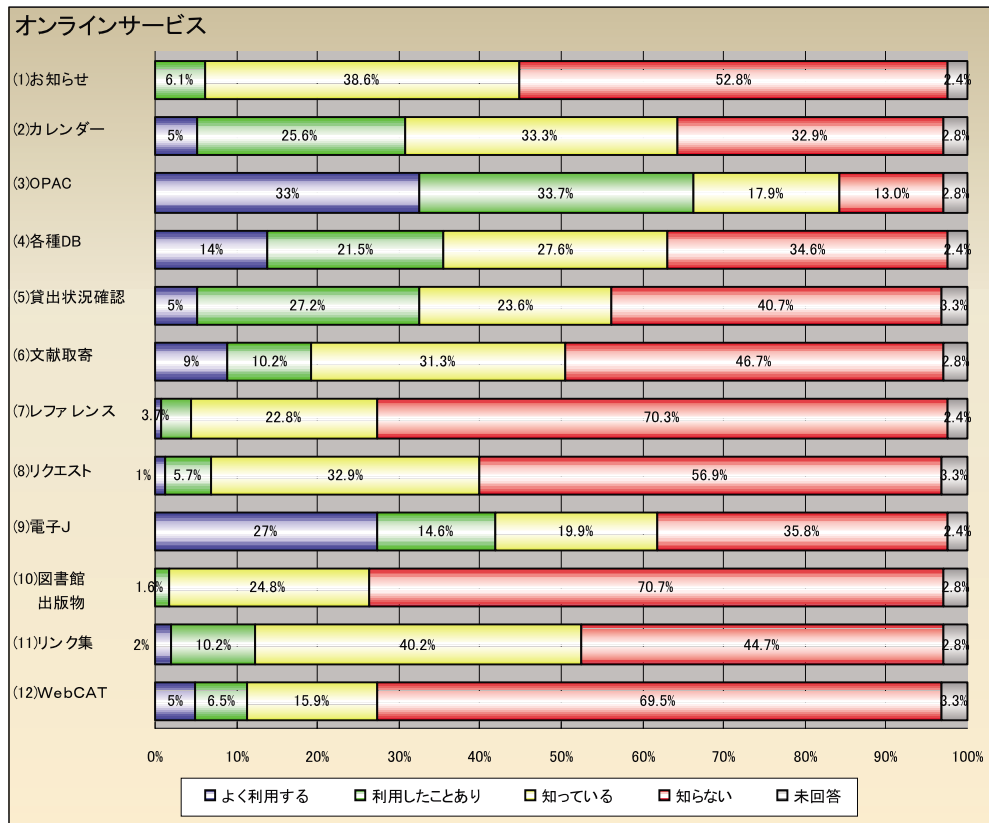
—中央館ASPECT熊大コーナーをご覧ください—

上野真也 (政策創造研究センター)  
 持続可能な地域社会の形成 成文堂 2005  
 西本喜久子 (教育学部)  
 アメリカの話し言葉教育 溪水社 2005

アンケート調査を実施して、回答率の低さ（熊大生の僅か2.3%です）が反省点としてあげられます。その原因としては、実施時期が後学期定期試験直前であったこと、手段がメールだけであったこと等が考えられます。これらのことをよく検証して今後の調査に生かしたいと思います。

図書館の17年度の年度計画では「図書館に対する熊大生のニーズを把握するためアンケートを実施す

る」としていま  
す。残念ながら、  
今回のアンケート  
結果では「熊  
大生のニーズを  
把握する」まで  
には至らなかつ  
たかもしれませんが、  
だいたいの傾向  
は見えたとおも  
われます。各要  
望への対応、認  
知度の低いサー  
ビスのPR方法  
等、検討課題も  
ある程度分かり  
ました。この調  
査結果を今後の  
図書館サ



(グラフ6)

サービスと業務の改善に役立たせたいと思います。ご協力頂いた皆様に心からお礼を申し上げます。

## 細川元首相が来館

本学に貴重な藩政史料を寄託されている財団法人永青文庫の細川護熙理事長が1月25日、中央館で同史料を含む古文書群の活用状況を視察。データベース計画等について吉村豊雄文学部教授や川口恭子客員教授から説明を受けた。



吉村教授の説明に熱心に聴き入る細川理事長と伊藤理事。後方は川口客員教授。

熊本大学  
学術リポジトリ  
06春スタート!!



特集 図書館と私

# 図書館ガイダンスへようこそ

## ■ 図書館ガイダンス 入門編

図書館ガイダンス入門編は、中央館で入学式直後に新入生向けのオリエンテーションとして開催しています。内容は30分程度、図書館の基本的な利用方法の説明と、図書館ツアーによる中央館内の学術的なコーナーから息抜き場所までの簡単な紹介を行います。

## ■ 図書館ガイダンス 中級編

中級編は、受講者が自らの力でさまざまな文献情報（図書・雑誌・新聞etc）の探索ができるようになり、さらにその文献の入手方法を習得することを目的として開催しています。内容に応じて3コースを選択、いずれもパソコンを用いて検索実習を行います。

「勉強、研究を進めるにあたって、どのように資料を探していけば良いかわからない」「資料をどうやって入手したらよいかかわからない」といった問題を解決します。

- ① 図書を探す … 探している図書が熊本大学にあるかどうかの確認をはじめ、興味のあるテーマから図書を探す方法も紹介します。
- ② 雑誌論文を探す … 雑誌に掲載されている記事や論文をテーマから探す方法や、その雑誌が熊本大学にあるかどうかの確認方法も紹介します。
- ③ 新聞記事を探す … 新聞記事をテーマから、また効率よく探す方法を紹介し、また、館内の新聞の置き場所にもご案内します。
- ④ 入手方法を知る … ①～③で探した文献の入手方法をいくつか紹介します。熊本大学にある場合をはじめ、熊本大学にない場合、すばやく入手する方法や安く入手する方法など、ご自分

平成18年度は以下の予定で開催します。  
多数ご参加ください。

### ■ 図書館ガイダンス 入門編

日程：平成18年4月5日(水)～14日(金)の平日  
時間：9:20-9:55, 10:30-11:05, 13:30-14:05,  
15:00-15:35, 16:40-17:15 (各回30～40分)

内容：図書館中央館の利用案内+館内ツアー  
※開館時間（平日9-22時etc）や休館日、入館方法、図書の探し方・借り方、図書の並び、雑誌・新聞のありか、自習室の場所、ビデオ・DVDコーナーの紹介

定員：各回30名（中央館カウンターで要予約）

### ■ 図書館ガイダンス 中級編

平成18年5月～6月を予定しています。

にあった入手方法を習得します。

## ■ 基礎セミナー 図書館活用法

学部一年生の基礎セミナーの1コマをお借りし、図書館の基本的な利用方法習得を目的として「図書館活用法」を実施しています。図書館の概要や利用案内をはじめ、館内資料の探し方やOPACの使い方、図書館ホームページの紹介を行います。入門編より詳しく紹介し、図書館にあまり足を運ばない学生に「身近な図書館」と知ってもらうことも目的としています。

## ■ 授業への協力

図書館では授業の1コマをお借りし、「情報の検索方法」「データベースの利用方法」などの出張ガイダンスも行っています。詳細は電子サービス係へお問い合わせください。

## ■ データベース説明会

外部の講師をお招きし、データベースの説明会も随時開催します。

## 平成17年度 図書館ガイダンスの実施結果

1999年から開催している図書館ガイダンスも今年で7年目を迎えました。今年度は、4月から「図書館ガイダンス 入門編」を、11月から「図書館ガイダンス 中級編」を、また春季と秋季に「基礎セミナー 図書館活用法」を開催しました。

電子サービス係

### ▼ 図書館ガイダンス 入門編

日 程 平成17年4月11日～20日 8日間  
全32回（各回30分・定員30名）  
会 場 中央館  
対 象 学生・大学院生（新入生優先）  
内 容 図書館利用案内（10分）＋館内ツアー  
参加者 490名

### ▼ 図書館ガイダンス 中級編

日 程 平成17年11月9日～11月30日 15日間  
全19回（各回70分・定員20名）  
会 場 中央館  
対 象 学生・大学院生・教職員  
内 容 ① 新聞記事の探し方 ② 雑誌論文の探し方 ③ 所蔵の調べ方の3コース  
参加者 129名

### ▼ 基礎セミナー 図書館活用法

日 程 平成17年4月21日5限、4月22日3, 4, 5限、4月28日5限、5月6日3, 4, 5限、10月13日5限、10月14日5限  
会 場 大学教育センター棟C301教室ほか  
対 象 基礎セミナー受講者（新入生）  
参加者 計52クラス863名

### ▼ データベース説明会

SciFinder Scholar説明会  
日 程 平成17年4月15日10:20～11:50  
（定員50名）  
会 場 薬学部第四講義室  
内 容 化学情報協会のインストラクターによるSciFinderの利用説明  
対象者 学内者  
参加者 51名

### ▼ 授業への協力

- ① 池見先生担当の1コマ（4月15日3限 理学部）  
SciFinderの利用説明（化学情報協会講師による）
- ② 藤本・田中先生担当の1コマ（5月12日5限 理学部）  
図書館の利用案内、図書・雑誌の検索実習、データベースの紹介
- ③ 森園先生担当の1コマ（10月19日3限 工学部）  
“図書館およびインターネット利用による情報検索”について解説とOPAC演習



特集 図書館と私

シリーズ 研究の周縁より

# 書物の敵<sup>1)</sup>

さあ 皆で声をあげよう  
さようなら 蠹魚たち  
図書館の本が今まさに朽ちんとしている  
図書館は大学の頭脳  
旧制高等学校関係の図書は文化遺産  
一刻も早く 手立てを  
ほら 蠹魚が  
ここにも  
あそこにも

早稲田大学図書館長を務めた市島謙吉春城（1860～1944）は愛書家・読書家であり、印章や篆刻にも造詣が深い。豊富な学識を有し随筆を多く上梓した。『市島春城古書談叢』（青裳堂書店）収載文は達文である。また彼は多くの印章、篆刻を収蔵した。彼の蒐集した印は、現在新潟県立図書館と早稲田大学に収蔵される。私はかつて一文を草しその収蔵印の価値に言及した<sup>2)</sup>。春城は図書の大切さや篆刻の素晴らしさについて述べる。

「図書漁りの業は全く故人の展墓のやうなもの」  
（「名家私印の蒐集に就いて」）

「故人の私印は其の人の位牌のやうなもの」（同上）

「図書の敵は種々様々あって或は全部を滅し、或は其面目を害しあたら貴重のものをメチャクメにすることは、図書に対する冒瀆であり罪過である。其の罪過の最も重きものは戦争や革命或は忌諱などに由り、わざと幾万の図書を束ねて劫火に附することであるが、実は図書に対しての無理解から其取扱を粗略にして、蠹魚の餌にすることを省みず、或は雨露に侵さるゝを保護することをせ

## 神野雄二（号 大光）

ず、動もすれば図書を崩して廁紙となし、或は焚料に供するなど、其の程度は小なれども、其の罪過たるや同一である。」（「書物の敵」）

さて私の専門は書道、中でも篆書・篆刻の作品制作と印人の研究である。篆刻は、石、木、金属、粘土に文字や画を美的に刻し版にする芸術である。篆書体を用いることが多いがそれに限らない。実用の判子とは篆刻を雅印と称して区別する。

篆刻は書の一分野である。

中国では、明時代に良質で柔らかい石印材が発見され、文人達が篆書を書き刻し、書画に押した。また篆刻自体が鑑賞されるようになった。中国の印である古璽印、秦漢印、西泠八家、完白、缶廬、白石は素晴らしい。

日本でも、古くは大和古印があり、江戸時代以降中国から篆刻が伝えられ流行伝播していった。芙蓉、大雅、蔵六、初世・二世蘭臺、寒山・正平、鉄斎、魯山人、一政、憲吉と篆刻の名家・文人が綺羅星のように排出した。

篆刻は伝統に追う所が多いだけに、時にそれを破壊する行為が必要だろう。技術のみが優先される芸術は死ぬ。生命が、生命のみがいる。創造的破壊。

模索を重ね、昨年末2005年12月に一つの作品を作った。甲骨文の拓影に魂を奪われてのこと<sup>3)</sup>。実験作である。（『楽篆』28号、2006.2、三圭社）

また、今回私的篆刻芸術論を書き、作品を制作した。すべて2006年作である。

これは紛れもない今の私である。



## 篆刻の神秘

まだ見ぬ世界への憧憬

新しい篆刻

篆刻における抽象表現主義

なぜ篆刻か なぜ書か なぜ文字か なぜ口か

なぜ○か なぜ赤か なぜ黒か なぜ筆か

なぜ線か

篆刻は天刻である

天の声を刻す—つまり天刻—龍印 (D・S)

動く天刻 (M・S)

亀裂や欠けに得もいえぬ限りない美を感じる

石は宇宙の欠片

古代人は 石斧や鎌を石を砕いて作った

縄文土器の欠片

志野茶碗の陶片

楽茶碗 光悦の罅と欠け

割れ目 欠けの美学

白洲正子は言う

「あまりに完璧なものはいいにきまっているが、  
完璧すぎると却って情緒に欠ける」(「骨董との付き合い」)

甲骨文の拓影に魅入られた

線と外形の面白さ

甲骨は完品少なく 不完全の美だ

その線は神線

篠田桃紅は言う

「その古い甲骨のキズみたいな稚拙な線には、遠い代からつづく人間の魂が宿っている」(「書と私」)

桃紅の線

円空の木彫り彫刻の鈍彫りの跡

光太郎の書の線

志功の板画の線

レ・フオンタナの「空間概念」の切られた線と空間

触れば血が吹き出る

凄みのある線

これこそ祈り

これこそ叫び

これこそ命

偽りのない世界

無心の美

無作のこころ

ヒエログリフ 楔形文字 甲骨文

刻画符号 陶文

昨今の印材は亀裂が多い

ならばそれを生かしてみよう

叩き割る

無造作なかたち

天刻 龍印

非文字天刻

全く新しい印の美の創出だ

篆刻の神秘

篆刻革命

今一度

古代文字に目を向けよう

己が

心

開いて

畢竟

人間か

さて、この篆刻の制作過程を明らかにしたい。  
まず、印材を叩き割る。それに篆刻する。もしくは、文字を刻した後叩き割る。方形の形が全く違った形となる。不定形。ここに想像が沸き立たせられる。そして組み合わせる。それを、印泥と日本画や・版画で使用する朱の顔彩で和紙や版画紙に押した。

これまでの、古来の篆刻とは全く相違する制作方法。私はこれを「天刻」、動く篆刻 (M・S)、「龍印」(D・S)と名付ける。

本誌に掲載した、①「作品05-1」は、文字「丙戌」を刻し、その石を叩き割ったものである。

(M・S) 処女作。微妙なバランスで成り立つ人間世界を表現した。②「作品06-1」は2作目。印文は「蠹魚」。叩き割った全く別の石材の組み合わせ。③「作品06-2」は3作目。非文字作品。文字を刻さない天刻。篆刻における抽象表現。甲骨文字前の刻画符号や陶文がヒントだ。刻線美の究極といえる。④「作品06-3」は4作目、非文字作品。ただ線の重なり面白さを追求。刻した印面を指で写し取る。⑤「作品06-4」は5作目。叩き割った面に刻字したもの。印文は「父母」。父母への感謝の思い。

今後の夢一つ。この極小印、方寸の世界を拡大印刷した極大印の制作。朱と墨で。人間の生の歓喜を象徴する太陽と、死の歓喜を象徴する月のイメージで。

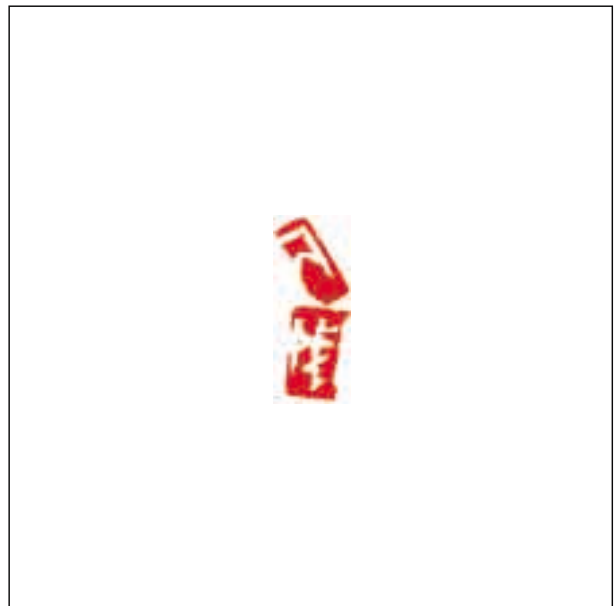
古典との真摯な対話。  
生きている実感。  
ここからしか、作品は生まれない。

熊本大学図書館から  
この忌まわしき虫たちが絶滅することを祈りたい  
さようなら  
蠹魚たち

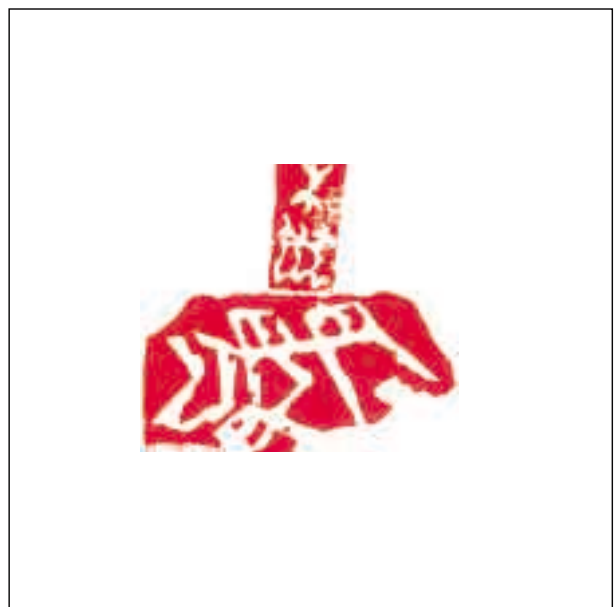
〔註〕

- 1) 庄司浅水著『書物の敵』(ブックドム社 1930.11) 本稿タイトルは、同著のタイトルに倣った。
- 2) 神野雄二「市島春城の印章」(『修美』No.44 修美社 1993.10)
- 3) 小林石寿編『展大甲骨文字精華』(木耳社 1985.6)

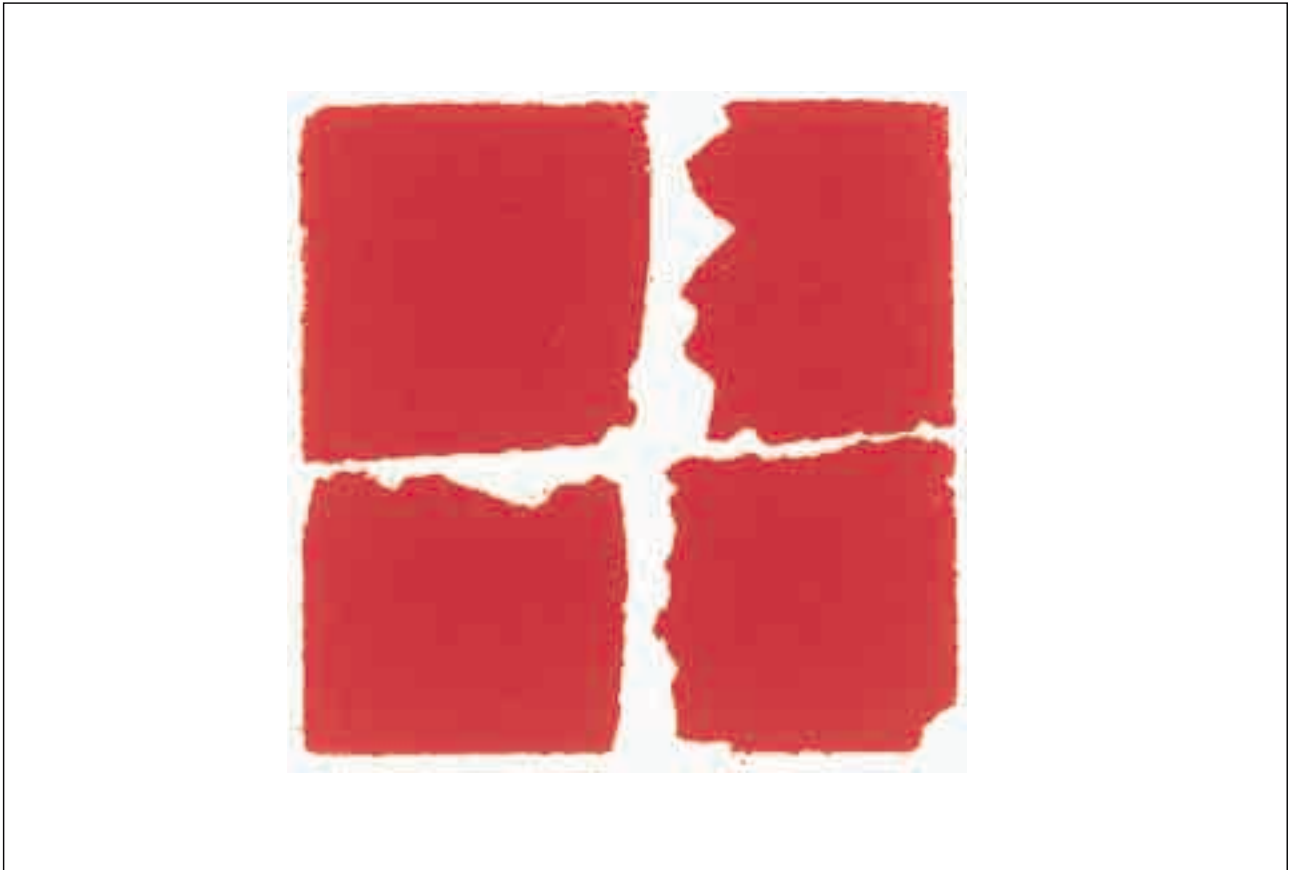
じんの ゆうじ  
熊本大学助教授・天刻家



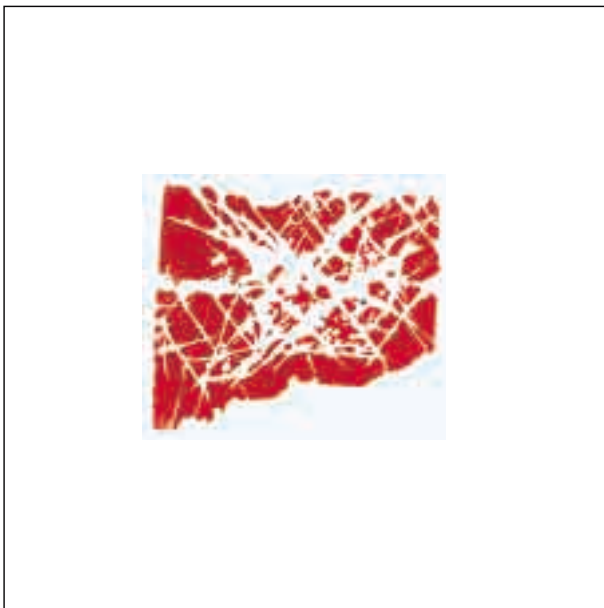
① 作品05-1 丙戌



② 作品06-1 蠹魚



③作品06-2 非文字作品 (原寸30mm×30mm)



④作品06-3 非文字作品



⑤作品06-4 父母

## 日誌 (平成17年11月～18年2月)

- 11/9-30 図書館ガイドランス中級編  
11/16-17 国立大学図書館協会シンポジウム (岡山大学)  
11/17-18 九州地区国立大学附属図書館長・事務 (部・課) 長等会議 (九州大学)  
11/22 熊本県大学図書館協議会セミナー (熊本大学)  
11/25 第1回CSI構築推進委託事業実務担当者会議 (NII)  
12/1 第4回図書館運営委員会  
12/7 第13回九州地区医学図書館員セミナー (佐賀大学)  
12/15 「阿蘇家文書」修復最終第34巻受領 (京都市)  
12/26 第7回係長会議  
1/12-13 九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議 (水前寺共済会館)  
1/17 「松井文庫一紙文書目録」作成開始  
1/16 第1回「図書館用積層書架及び中二階一式」仕様策定委員会  
1/21-22 大学入試センター試験  
1/25 細川護熙永青文庫理事長来館  
1/27 監査法人監査  
1/31 「阿蘇家文書」修復完成記念展実行委員会準備会 (熊本県立美術館)  
2/8 第8回係長会議  
第2回「図書館用積層書架及び中二階一式」仕様策定委員会  
2/9 第3回長崎大学附属図書館連続講演会 (長崎大学)  
2/15 第2回CSI構築推進委託事業実務者連絡会議 (NII)  
2/21 平成18年度NACSIS-CAT/ILL講習会実施検討会議 (NII)  
2/25-26 熊本大学個別学力検査 (前期日程)

### 表紙の言葉

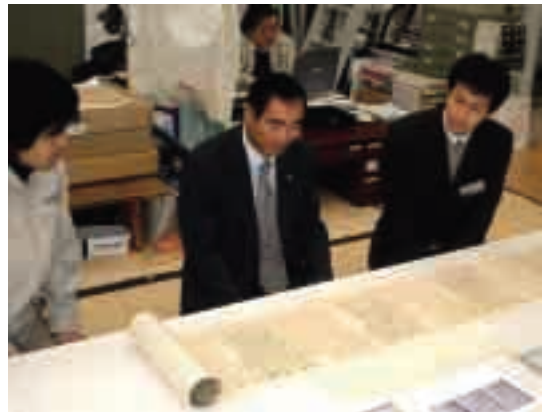
今回は「阿蘇家文書」から、約460年前の女性の手紙『後奈良天皇女房奉書』です。

## 人事異動 (平成17年11月～18年2月)

- 新任 (平成17年12月1日付)  
熊本大学客員教授 (附属図書館)  
川口 恭子 (新規採用)

### 阿蘇家文書全巻の修復完了

18年間に及ぶ国指定重要文化財「阿蘇家文書」の修復作業が無事完了した。今秋、熊本県立美術館・日本古文書学会の協力を得て記念行事が予定されている。



仕上がりを確認する担当者

---

### 東光原：熊本大学附属図書館報 第44号 平成18年3月刊

- 発行 熊本大学附属図書館  
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目40番1号  
Tel. 096(342)2273 Fax. 096(342)2210  
編集 柿本義行 浦田博臣 秋吉陽一郎  
森下和博 坂崎直美 大倉 桂  
URL <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/>
-